平成１９年 ２月 ２３日

博士論文審査結果報告書

学位授与番号　医博甲第 1863 号

学籍番号

氏　　名　　塚田　久恵

論文審査員

主　査（教授）　　城戸 照彦

副　査（教授）　　稲垣 美智子

副　査（北海道大学教授）佐伯 和子

論文題名　Uncertainty in beginners of public health nurse who work for local governments when providing mother-and-child health service

論文審査結果

１　論文審査の要旨

新任保健師は，従来，基本的知識と力量で対応できる母子保健活動を中心に担当してきた。しかし，近年の新任保健師はその活動に戸惑いを感じる場合が多い。本研究は，行政機関で働く新任保健師が母子保健指導の際に抱く戸惑いを明らかにし，望ましい現任教育及び基礎教育のあり方の示唆を得ることを目的に，20 名の保健師に対し，Grounded Theory Approach による半構成面接と分析を行った。

その結果，以下の３つの中核カテゴリーが抽出された。①自分の保健指導力の不足は出産・育児経験がないためと思い込み，母親に向き合うことへの障壁と困惑を引き起こしている。②生活に関連する質問に答えられないことに困惑している。③専門職としての信用失墜を恐れている。すなわち，新任保健師が母子保健指導で抱く戸惑いは，自分の保健指導力の不足は出産・育児経験がないためとの思い込み，人間関係構築の困難さ，指導基準がないこと，生活環境を踏まえた総合的判断の困難さ，専門職としての期待という重圧であることが明らかになった。

２　審査結果の要旨

主な質疑内容は「対象者の経験年数による戸惑いの内容の違い」や「指導基準があることの是非」であり，それに対して「違いはないが，母子健診への執務頻度が多い者に，出産・育児経験がなくても適切な指導が可能ではないかという気づきが見られた。」や「おむつの当て方，離乳食の作り方等の手順を示す内容については，指導基準があると良いが，母子とその家族の生活や価値観，取り巻く環境を踏まえた総合的な判断力が求められる母子保健指導には，指導基準を作ることは困難である。」と回答した。その他，活発な質疑応答がされた。副査から地方自治体が再編される中で保健師の役割も変貌しており重要な研究報告であるとの評価があったほか，質的研究ではとりわけ結果の解釈には慎重な配慮を要するとの指摘があった。指摘された点を十分配慮する必要があるが，現代の若者像と母親，及び新任保健師の特徴が重なり，新任保健師の戸惑いの表面化による昨今の母子保健指導の困難さを明らかにしたことは，今後の母子保健サービスの一層の向上を図る上で意義があり，新任保健師の適切な母子保健指導能力を育成するための基礎教育，現任教育のあり方を示していく研究の発展が期待される。

以上より，本研究は博士後期課程の学位授与に値すると評価する。